

地域ブランドをつくる人たち

丹波たかみ農場 訪問 (2022.7.13)

地域ブランドに強い関心を持ち、独自に地域ブランドの取材活動を行っている弁理士法人オフィス大江山の弁理士 岡恵による今回のテーマは、「丹波産の有機野菜」。

丹波市内の“有機の里 市島町”で、有機農法を行う株式会社丹波たかみ農場の代表 高見康彦さんにお話を伺いました。

■農協職員としてのスタート～有機の里で独立まで

高見康彦さんは、もともと農協の職員のご出身です。地域の農家さんの目線とともに歩み、営農指導、農業経営に関わり、作り、育て、流通させ、販売する、という全ての流れを農協職員として実体験してこられました。その後、専業の農家として独立されました。高見さんで2代目だそうです。丹波市市島町は、もともと養鶏が盛んな土地であったそうで、約40年ほど前から、そのたい肥を有効利用する形で有機栽培が広がりました。消費者の食に対する安全の意識が高まりはじめたタイミングと重なります。

■栽培品目

現在、丹波たかみ農場で栽培されている作物は次の通りです。オリジナルのロゴにも、栽培品目がかわいらしくデザインされていますね。

- ・米:12町歩...7.5haが特別栽培米 (注1)、4.5haが有機栽培米
- ・にんじん:50a、有機JAS認定
- ・黒豆:85a、有機JAS認定
- ・小豆:1.5ha、有機栽培が20a、残りは無農薬栽培
- ・栗:40 a。定植してまだ2年目とのことですが、社員の荒田夢芽さんが頑張って育てておられるそうです。



「町歩」とは普段あまり耳にしない単位ですが、米12町歩とはどのくらいか、といいますと、東京ドーム単位(東京ドームの面積:46,755平方m)で、約2.6個分に相当する広さです。いかに大規模な農業を行っておられるかが、おわかりいただけるでしょうか。丹波の土地は中山間地ですから、この規模の農業を実現されていることは、地域の自然環境の保全にも大きく貢献されていることがわかります。

注1：生産された地域の慣行レベルよりも、節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下の農産物のこと。なお、兵庫県の水稲の場合の慣行レベルは、節減対象農薬の使用回数が20回、化学肥料の窒素成分量が8.5kg/10a (特別栽培農産物表示ガイドラインに基づく兵庫県の地域慣行レベル、令和2年3月兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課作成より引用)

■こだわりの「BLOF理論に基づく農法」

さまざまな農法がある中、生態系調和型農業理論であるBLOF :Bio Logical Farming (バイオロジカルファーミング) に基づく有機農法を実践されています。一般社団法人 日本有機農業普及協

会のサイトによると、「①農業の原点に立ち返り、自然生態系の法則を学び、作物が健康に育つために必要な適切な土づくりを行う。②植物生理（作物の生き様）を学び、作物が、それぞれにそもそも持っている能力を最大限に発揮できるように栽培環境を整える。」農法のことだそうです（<https://www.jofa-blof.net/blof>、2022年8月1日アクセス）。

「土台となる土づくりがなにより一番大切。作物自体が健康で、細胞組織に力があれば病害虫にやられないんです。だから農薬が必要なくなるんです。よく、“虫が食べるのは、おいしい野菜の証拠”と言われることがあります、それはちょっと違うように感じています。」と高見さんはいます。お話を伺う中で、BLOF理論に基づく土づくりは、科学的に裏付けられた、“野菜が野菜らしく生きるための最高のステージを提供すること”にある、ように感じました。高見さんの提供するふかふかのステージで育った野菜たちが、イキイキとしている理由はここにあるでしょう。

■仲間とともに

高見さんは仲間とともに野菜作りをされています。

例えば、人参は、「丹波人参クラブ」、米は、「丹波こめいち」、黒豆や黒枝豆は「畑家族」というふうに、生産者でグループを作り、生産量を上げ、共同のブランド名でとして出荷されています。「一軒の農家ができることには限りがあるけれど、産地として生産量をあげて、ブランド力を高めてゆくには、仲間とともに生産することが重要です。もちろん、出荷規格は統一して品質を管理しています。」と高見さん。

商品の販売ルートは、JA丹波ひかみ営農経済部さん経由、のほか、商品によってナナ・ファーム須磨、ナチュラルハウス経由でも販売されているようです。「JAの販売網を活用することで、わたしたちは生産に集中することができます。」と高見さん。ここでも前職の農協職員としてのご経験が活かされているようです。

そんな高見さんのところには、高見さんのBLOF理論による農法を学びに来る方も多くいらっしやいます。丹波市市島から、新たな仲間も続々と生まれています。

■さいごに

お話しを伺った日は、雨上がりの翌日の蒸し暑い午前中でした。大雨の翌日でしたから、畑の様子は大丈夫かな、お忙しいかなと思いながらお尋ねしたのでした。高見さんは、とても穏やかな笑顔で、農業のことをお話してくださいました。地域環境の保全という点でも、農業の果たす役割は非常に大きいです。野菜のための最高のステージづくりをしながら、市島の土地を守っておられる高見さんのお話をお聞きできたことは大きな喜びでした。

高見さんのお話によると、人参がたっぷりの、丹波人参クラブの「丹波にんじん搾り」ジュースを頂きましたが、砂糖も入っていないのに、甘くて、ピューレのような濃厚さ。栄養価を保持するために、低温殺菌で製造されているとのこと。身体の中の悪いやつらが一扫されるような、まるごと人参な一品を頂き、すっきりとした気持ちで、市島を後にしたのでした。

写真1 人参ジュースとパンフレット

写真2 砂糖なしの天然素材のみ

(文：岡 恵)

【弁理士法人オフィス大江山・行政書士オフィス大江山】
代表 岡 恵



所在地 〒658-0013 兵庫県神戸市東灘区深江
北町4丁目8番19-201号

お問合せ 電話 070-7569-1954 / 070-7569-1967 URL <https://o-ip.pro/>